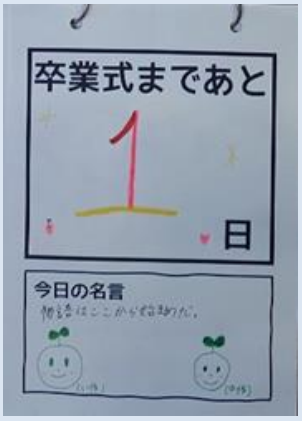
はばたき
学校便り　第２号

発行元
帯広市西２５条南２丁目７番地８　北海道帯広聾学校
（電話・ＦＡＸ）０１５５―３７―２０１７
（mail）obihirorou-z0@hokkaido-c.ed.jp
（HP）http://www.obihirorou.hokkaido-c.ed.jp
発行　令和７年３月２４日（月）

「物語はここから始まるのだ」

北海道帯広聾学校長　二階堂　洋　子

これは、６年生が自作で作った卒業カレンダーの最終日に書かれていたことです。
たまたま、私が卒業生などにエールを送りたいときに引用することのある曲の歌詞を一部載せて、６年生に一言メッセージを贈った思いと重なりました。



飛び立つための助走を　どこまでも続けてみよう
その先に見える景色はいつも新しい
導くための序奏は　誰よりも自由でいよう
未来はいつだってはじまったばかり
いまこの瞬間が輝きはじめる
（半﨑美子さん作詞・作曲「明日への序奏」より）

そう、未来はいつだってはじまったばかり。物語はこれから始まるのです。
中学部を卒業する生徒が語った「本当の夢」。「そんなの無理」ではなく、「どうしたら叶うか」の視点で考えようとしている姿勢に感動しました。
幼稚部のお別れ会では、学習発表会の時よりも更に表情、表現が豊かになって、堂々と発表する幼児の様子と、３ 年間の思い出をしっかり伝える修了生の姿がありました。子ども達の笑顔と保護者の涙、先生方の温かくも適切な指導支援の様子に、皆の成長とこれからの期待を存分に感じました。

前任校で、通って来ていた子どもが突然亡くなるということを経験しました。
また、ちょうど１年前に、中学部の卒業生の保護者が卒業式の３日前にお亡くなりになったということがありました。奇しくも卒業式の日がその保護者の葬儀の日となりましたが、保護者は当然、生徒の卒業式、晴れ姿を見ることを楽しみにしていたこともあり、生徒は式を欠席せずに、悲しみの中、たくさんの思い出とこれからの決意を胸に、立派に旅立っていきました。
卒業をすることも、卒業を見守ることも当たり前ではなくて、奇跡のようなことです。
本日、保護者、地域の方々に見守られながら、卒業証書、修了証書を 14 名の幼児児童生徒に渡すことができました。どの子も様々な経験と学びを通して、大きく成長しました。元気に活動している子ども達の様子や日々の成長を喜び合えることに感謝しながら、これからも皆様と共に歩んでいきたいと思います。
あらためまして、卒業・修了おめでとうございます。幼児児童生徒のここから始まる物語、幸せな未来を心から応援しています。
一年間ありがとうございました。

＊退職者・転出者から＊

事務長　渡邊　準　　（北海道美幌高等学校へ）

　この度、美幌高校へ異動することになりました。帯広聾学校での２年間は、できる限りの時間を子どもたちの学校生活を間近で見守ることに努めてきました。学校生活での楽しい経験や、悔しかった思い出を目の当たりにし、こちらに赴任するまで１０年以上学校現場を離れて仕事をしていた私にとって、今後仕事をしていく上で、大切な感覚を身につけることができたと感じています。次の職場でも、新しい経験を求めていきたいと思います。保護者の皆様、ご支援いただいた地域の皆様、ありがとうございました。

専門主任主事（事務室）　髙橋　早智　　（北海道中札内高等養護学校幕別分校へ）

　６年間お世話になりました。子ども達の様子を感じながら仕事が出来ることは、楽しみのひとつでした。４月からは中札内高等養護学校幕別分校で勤務しますが、帯広聾学校での経験をいかしていきたいと思っています。職員や保護者の皆様にはいつも御協力いただき、感謝しております。ありがとうございました。

主任主事（事務室）　管野　敬　　（北海道帯広農業高等学校へ）

　１年という短い期間でしたが、大変お世話になりました。
　４月からは帯広農業高校で勤務します。聾学校の皆さんにお目にかかれなくなるのはさみしいですが、皆さんが元気に顔晴（がんば）る姿を想像しながら、私も新しい場所で顔晴（がんば）りたいと思います。
　幼児児童生徒のみなさん、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

教諭　宮木　沙絵　　（筑波大学及び筑波大学附属聴覚特別支援学校へ）

　この度、筑波大学及び筑波大学附属聴覚特別支援学校へ１年間の研修へ行くこととなりました。慣れない関東での生活に不安がいっぱいですが、日々勉強や部活、遊びを全力で頑張る子どもたちに負けないよう、そして、来年「久しぶり！」と胸を張って帰ってこられるように頑張ってきたいと思います。行ってきます！そして、また会いましょう！

教諭　石井　俊夫　　（帯広市立明和小学校へ）

おしゃべり好きの子どもたちに囲まれ、楽しい日々を過ごしてきました。そして、気が付けば、異動の日を迎えることになりました。子どもたちの元気な笑顔とともに過ごした時間は、私にとってかけがえのない、幸せな時間でした。これから会えなくなってしまうのは寂しいですが、さらに成長した子どもたちに再会できることを楽しみに、次の学校に向かいます。９年間、お世話になりました。本当にありがとうございました。

教諭　西岡　昌裕　　（北海道帯広養護学校へ）

２年間の短い間でしたが、本校に来てたくさんのことを学ばせて頂きました。幼児児童生徒達のなんでも吸収する力の大きさとそれに対応する先生方の真剣に取り組む姿勢に感銘を受けました。いつも明るい児童生徒達と一緒に授業をして楽しい思い出がいっぱいできました。本校のみなさま、ありがとうございます。

養護教諭　中本　真麻　　（退職・北海道帯広養護学校へ）

私が赴任した２０１６年は、現在の小６が幼稚部へ、中３が小学部へ入学した年でした。皆さんとともに私も聾学校を離れることになり、とても感慨深いです。それぞれの道で、チャレンジすることを恐れずに進んでいってください。応援しています。９ 年間お世話になりました。保護者の皆様、学校保健活動に御協力いただき、ありがとうございました。

＊お知らせ＊

日ごろの聾学校の様子はホームページに随時掲載しております。本校の学校ホームページには、右記のＱＲコードからアクセスできます。ぜひご覧いただければと存じます。

保護者の皆様や地域の皆様、さらには本校に関わるすべての皆様に、今後とも本校への変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。